

三育学院カレッジ神学科入試 聖書試験の傾向

1. 正誤問題—聖書に関する文の正誤を判断する形式

例

1. モーセが神から十戒を授かったのは、イスラエルの民が40年荒野をさまよった後、シナイ山で起きた出来事である。(正答 X)
2. ソロモン王の死後、イスラエルは北イスラエル王国と南ユダ王国に分裂した。北イスラエル王国はアッシリアに、南ユダ王国はバビロンに、それぞれ滅ぼされた。(正答 O)
3. エステルは、モルデカイのいとこにあたり、ペルシャ王クセルクセス(アハシュエロス)の妃となった。(正答 O)

2. 穴埋め問題—聖書に出てくる様々なリストを完成する形式

例 十戒、新約聖書の書名、十二弟子の名前

3. 歴史年代に関する問題—聖書内の出来事・人物を、歴史の順番に並べる形式

例 エリヤ イスラエル王国分裂 アブラハム 出エジプト ラケル

正答 アブラハム ラケル 出エジプト イスラエル王国分裂 エリヤ

4. 聖書の登場人物に関する問題—条件にあてはまる聖書の登場人物を特定する形式

例

1. モーセの兄(正答 アロン)
2. 使徒ヨハネの兄弟(正答 ヤコブ)
3. イサクの妻(正答 リベカ)

5. たとえ話の説明—キリストのたとえ話について、100～150字で説明する形式

・上記以外に、ダニエル書2章に描かれている立像の解釈、「モーセ五書」の意味については、毎年出題される。

・神学科での学びの基礎となる聖書知識に関する問題であるため、キリスト教史やアドベンチスト教理に関する問はない。

三育学院カレッジ神学科入試

小論文試験の出題傾向について

1. 試験形式—課題文読解・論述形式

キリスト教信仰や神学に関する課題文(A4用紙1枚程度)を読み、その内容について論じる形式です。文字数は全体で800字以内です。

2. 出題構成—要約・見解・適用の3要素

設問は、原則として、①文章を正しく理解する要約、②テーマに対する見解、③自身の生活への適用の3要素から構成されます。

<例>

1. 要約: 著者の主張や議論の中心点を簡潔にまとめる。
2. 見解: テーマに対する自分の考えや、信仰的理解を述べる。
3. 適用: その理解を自身の信仰生活や将来の働きにおいて、どのように実践したいかを具体的に述べる。

3. 出題テーマ—信仰生活や教理に関するE.G.ホワイト著作など

課題文は、主としてエレン・G・ホワイトの著作(『キリストへの道』『各時代の希望』など)や、セブンスデー・アドベンチスト教会の基本的な教理、信仰生活に関する文章から出題されます。

<例>

- 救済論: 信仰による義(義認)と律法(安息日)の関係
- 聖書研究: 聖書を学ぶ目的と正しい態度、祈りと聖霊の必要性
- 聖化: キリストを見つめることによる品性の変容、信仰の成長
- 伝道: 伝道者の力の源(神との交わり)、キリストにならう生き方

<例題> 2025年度入試問題より

問い: 聖書の研究について述べた以下の文章をよく読み、内容を要約しなさい。また、終わりの時代に聖書を学ぶ意義についてあなたの考えを述べ、その上で聖書の学びをどのように実践していきたいか具体的に述べなさい。(全体で800字以内)

聖書の学びかた

聖書から真理を学び、その光に歩み、そして他人にも自分の模範に従うように励ますことは、すべて理性のある者の第一にして最高の義務である。われわれは日々熱心に聖書を研究し、すべての思想を熟考し、聖句と聖句を対照すべきである。われわれは神の前で自分で答えるのであるから、神の助けによって自分で自分の考えを定めなければならない。...(中略)...

われわれは聖書の研究に知能の全力を注ぎ、人間として及ぶかぎり、神の深い事柄を悟るために理解力を働かせねばならない。しかし幼な子のような従順と服従が、学ぶ者の真の精神であることを忘れてはならない。聖書の難解なところは、哲学上の問題を把握するのに用いるのと同じ方法では決して解決されない。多くの人々が科学の領域に入る時にいただいているような、自分を頼みとする心をもって聖書の研究にたずさわるべきではなく、祈りのうちに神により頼む思いと、みこころを知りたいというまじめな願いをもってなすべきである。...(中略)...

み言葉をたくわえよ

聖書は祈りなしに研究すべきではない。聖霊だけが、理解しやすい事柄の重要性を感じさせ、あるいは理解の困難なものを曲解しないように守る。われわれがみ言葉の美しさに心をひかれ、その警告に戒められ、み約束によって活気づけられ、力づけられるように、心を備えさせて神のみ言葉を理解させるのが、天使たちの働きである。われわれは詩篇記者の「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください」という訴えを、自分のものとしなければならない(詩篇119篇18節)。試みがしばしば抵抗できないもののように見えるのは、祈りと聖書研究を怠っているために、試みられている者が神のみ約束をすぐに思いだすことができず、聖書という武器をもってサタンに対抗することができないからである。しかし天使たちは、神の事柄を喜んで学ぼうとする人々のまわりにおいて、緊急の場合には必要な真理を思い起こさせる。こうして、「敵が洪水のように押し寄せるときに、主の霊はそれに向かって旗をあげられる」(イザヤ書59章19節、英語訳)。

イエスは、「助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起こさせるであろう」と弟子たちに約束された(ヨハネ14章26節)。しかし、危機の時に、神のみ霊がわれわれにキリストの教えを思い起こさせてくださるためには、それをあらかじめ心の中にたくわえておかねばならない。ダビデは「わたしはあなたにむかって罪を犯すことのないように、心のうちにみ言葉をたくわえました」と言った(詩篇119篇11節)。

エレン・G・ホワイト『各時代の争闘』(『希望への光』、福音社、2007、pp.1890-91)